（別　紙）　　作成日　平成27年10月10日

1　自己評価及び外部評価票

【　事業所概要（事業所記入）　】

事業所番号	2070501065		
法人名	特定非営利活動法人　心		
事業所名	グループホーム　こころ		
所在地	長野県飯田市松尾上溝6301番地1		
自己評価作成日	平成27年8月10日	評価結果市町村受理日	平成27年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2070501065-00&PrefCd=20&VersionCd=022

【　評価機関概要（評価機関記入）　】

評価機関名	NPO法人　福祉総合評価機構　長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307－5
訪問調査日	平成27年8月21日

【　事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）　】

一切の制約がないことから、これまでの生活の延長とし、自宅での生活と何ら変わりない日々を送っていただいている。自宅へ帰りたいと訴えがある時や、家族が都合で連れて行けない時は、職員が自宅まで連れて行く等のサービスを行っている。また、ほとんどの入居者の皆様が終末期をここで迎えれるように、職員みなで日々努力している。

【　外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）　】

いつ来ても、このグループホームに暮している利用者と職員とは、とても親しくあたかも家族のような言葉かけをして、造作ない自然な行動が見られるのは、どこから来ているのだろうかと思う。そして、幾度も見て、幾度も尋ねてみて、次のような職員の言葉から思い当たるのである。
「身寄りが少なく、頼りになる人がいない利用者を多く受け入れているグループホームでは、家族としての信頼関係を築くことは、一朝一夕には築くことができない。座って話し込んだり、添い寝したりして、利用者の『心への働きかけ』を継続して行うことが大事だ思う」と語る管理者の話が印象に残っている。それはまた、利用者をあるがままの姿としてとらえ、その人らしい暮らしを支えていこうとする信念でもあると思う。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名（　　）

	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の２/３くらいの
			③利用者の１/３くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	①毎日ある
			②数日に１回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
		○	③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない

	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の２/３くらいと
			③家族の１/３くらいと
			④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（11,12）	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の２/３くらいが
			③職員の１/３くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の２/３くらいが
			③利用者の１/３くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の２/３くらいが
			③家族等の１/３くらいが
			④ほとんどできていない

グループホーム　こころ
（別　紙）

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況（太枠囲み部分）」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識し、職員会議などで共有し、実践に向け具体策について意志の統一を図っている。	理念の下四つの基本方針を立て、実践に活かしている。特に、利用者への「心への働きかけ」を大切にし、家族としての信頼関係を築くようにしている。このような働きの結果、このグループホーム独特の親しみのある言葉かけが生まれてきたり、必要があれば添い寝する行動となってきたりしていると思われる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くへ散歩に出かけたり、近所の方の来所があったりする。また地域の行事があれば参加している。	近くにある同一法人の高齢者住宅「えん」まで散歩して交流したり、利用者の友人の来所を積極的に受け入れたりしている。また、地域の夏祭りや、神社の祭りに参加して、地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生等の実習生を受け入れ、その中で支援方法などを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・民生委員・地域包括職員出席のもとに会議を開き、ホーム内の行事や利用者の方々の状態を伝え、意見や、アドバイスまたは要望をいただき取り入れている。	年6回奇数月に、運営推進会議を開いている。利用者代表・家族代表・民生委員・地域包括職員の参加で、利用者や職員の様子などを報告し、話合っている。	地域との関係をさらに深めていくためにも、自治会などの協力を得ることが重要である。運営推進会議に自治会などのメンバーに参加してもらい、話し合いの充実を図っていきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所連絡会やグループホーム連絡会などに出席し、情報の共有を図り、協力体制を築いている。	地域包括職員との連携を密にして、運営推進会議には必ず出席してもらうように努力している。また、事業所連絡会やグループホーム連絡会などには積極的に参加し、情報を共有し協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議やケア会議などを通じて、職員の理解を深め、拘束のない介護に努めている。これまで拘束はしていないが、必要と認める場合は、家族などに対し同意書を得るようにしている。	利用者の中で外出したがる方には、行きたいところまで付き添い、声をかけないで見守るようにしている。このように利用者の生活のリズムやペースを大事にし、その人らしい暮らしができるようなケアを目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議、もしくは研修会があれば個々に参加していただき、注意・防止を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修会などがあれば参加をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族との面談の中で十分に説明をしている。後日必要とあれば話し合いを持ったりして、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が現場にいることが多く、面会などの時に話を聞く機会があり、それを運営に反映している。	家族が面会に来た時に、管理者が中心となって話を聞くようにしている。グループホームに頼り切っている家族が多く、意見や要望はほとんどない。利用者アンケートに出てきた要望については、施設の拡充という点で難しいところがあるが、検討していく、との事であった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が現場に常に入っているため、職員からの意見提案を聞き、運営に反映できるように、理事長に進言もしている。	管理者が現場に絶えず関わって、職員からの声を吸収し、理事長と相談して運営している。職員会は職員の出席できる日程を組んだり、職員間で行事や部屋担当を分担して、話しやすい雰囲気を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己研鑽ができるよう自己評価をしてもらい、さらなる向上心を持って勤務ができるように整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの職員が各種研修会に参加できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域のグループホーム連絡会の研修会を通じて、サービスの向上につなげている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	それまでの生活状況をふまえて、安心して過ごせるように、しっかり声に耳を傾けて、信頼関係が築けるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の声に耳を傾け、入所後の不安が残らないよう関係づくりに配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の負担軽減ができるように、他のサービスも踏まえた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に苦楽を分かち合えることに重きをおき、共に楽しく暮らせるように、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを理解し、本人を共に支えていける対応に心掛ける。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの関係を大切に保つ支援と、家族に会いに行きたい利用者の外出支援を行っている。	利用者が自宅に帰りたいと要望する時には付き添ったり、墓参りを希望する時には一緒に行ったりして望みがかなうように努めている。また、家族・親戚や友人などが面会に来る時には声をかけ、気楽に過ごせるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の間に職員が入り、互いが互いを思いやりが持てるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了をされた家族でも、必要に応じて相談にのれるように支援している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に添える様に、買物や、自宅までの外出に対して柔軟に支援をしている。	日々の生活を記録する個別ファイル「介護記録」に、利用者の様子を日中は黒字、夜間は赤字、看護は青字と色分けして記入し、利用者一人ひとりの思いや希望・意向を職員が共有し、把握できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や、以前の介護支援専門員等から情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を個別ファイルに記載し、それを職員皆で共有し、状態の把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別ファイルまたは、日々の申し送りや職員会議などにおいて、職員と話し合い、現状に即した計画を作成している。	一人ひとりの利用者に職員の担当者を決め、その職員を中心にして介護計画を作成し、職員全体で検討している。また、個別ファイル「介護記録」を参考にしてモニタリングを行い、利用者の現状に応じた介護計画に見直している。	個別ファイル「介護記録」に、介護計画のサービス内容別の評価を記録するなど、モニタリングを工夫して、さらに充実した介護計画を作成していきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現状の状態を、個別ファイルや、職員会議などから、職員間で共有し、実践に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時々に生まれるニーズに対し、対応しきれるものは柔軟に対応をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々の訪問等による娯楽を楽しめるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一度の往診や、中には病院受診を受けられるようにしている。また、具合が悪い時等はすぐにかかりつけ医に連絡をとる等連携を密にしている。	月一度、近くのかかりつけ医に往診してもらっている。また、利用者のそれぞれのかかりつけ医には連れ添って受診するよう支援している。特に、異常があった場合は、すぐかけつけ、すぐ受診できるようにかかりつけ医と連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非正規職員の中に準看護師がおり、連携をとりながら適切な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族の負担を軽減するため、早期退院が出来るように、担当のソーシャルワーカーとも話を進めたりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、終末期について話し合い、かかりつけ医との連携して、家族の思いを理解した看取りを行うことができている。	契約時に家族と重度化や終末期に向けた話し合いを行い、また、かかりつけ医などと連携して、看取りができる体制を作っている。そして、終末期には管理者が中心となって対応できるような職員体制をつくっている。これまで何名もの看取りを無事行ってきている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議または日々の申し送りなどを通じて、急変時、事故発生時の対応を綿密に話し合い、職員一人一人が理解するよう心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、地元消防団の指導の下、緊急通報装置の使用方法、夜間帯の呼び出し訓練を行っている。	１１月には、連絡網で通報し、職員が集合する通報訓練を行った。その折に、消防団の協力を得て、利用者の2階からの避難訓練も行った。また、５月には消防署の協力を得て、警報装置の使用についての訓練を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳またはプライバシーを大切にした対応や声かけに留意をしている。	利用者の人格を尊重して、本人が呼んでほしい呼び方を家族から聞き、名前や名字で呼び掛けている。また、トイレなどの誘導などでは、利用者の動きを見ながら本人の意向を察し、確認して対応するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意思を表現できるように、支援者側はその行動を見守り待つ介護ができるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースにあわせて、必要時必要な支援を行えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等、更衣時に選択していただけるようにしている。また理美容にも気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器を下げられる方は、食器を下げていただいたりし、自立に向けた支援を行っている。	利用者の重度化により、以前はできていた盛り付けなどは難しくなってきているが、食器の準備や後片付けなどは行っている。利用者の希望や季節に合わせた献立を作ったり、月2回の昼食時に、好きなパンを選ぶパン食を行ったりして食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の状態を把握して、食事量、水分量を調整して、栄養が偏らないように心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアの声かけを行っている。自分でできる部分は自分で行なっていただいている。また、義歯のない方へのガーゼによるケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を心掛けている。リハビリパンツまたはオムツは必要時以外はひかえて、下着での生活を送れるように支援している。	原則として、リハビリパンツやオムツはしないで、普通のパンツを使用して気持ちの良い生活ができるように努めている。補助にパットをしたり、トイレ誘導したりしているが、汚れてしまった時にはシャワー浴を行い、対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関と連携し、指示を受けて服薬などによる健康管理を行っている。また、便秘予防のため、朝起床時に水を一杯飲んでいただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を尊重している。また、入浴表を見て入る人の予定を立てて、入浴の声かけをしている。	利用者の希望による入浴表を作り、1週間に2回から3回程度入浴できるようにしている。その時には、看護師のバイタルチェックも行うようにしている。また、利用者の重度化により、2人対応や3人対応の入浴も支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人にあった時間、または場所で休める様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別にすぐ確認できるようにファイルを管理し、必要時すぐ見て、服薬の調整等できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物の片づけ、紙袋作りなど人それぞれにあった支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	急な外出でも家族の協力のもとに可能であり、また、必要時必要な外出ができるようにしている。職員と一緒に買い物に行ったり、隣接施設へ散歩に出かけたりしている。	普段は近くの同一法人高齢者住宅「えん」へ散歩に出かけたり、買い物に出かけたりしている。また、月に1・2回は家族の協力を得て、春には桜や花桃・藤の花見など、特別な外出を計画し、楽しんでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持をしている人は少ないが、外出時など自分で買物ができるように支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい、手紙を書きたい等の訴えがある時には、それができるように支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先または食堂のテーブルなどに、季節が分かる草、花などをおき、穏やかに過ごせる空間作りに気をつけている。	もともと、このグループホームは普通の住宅を改造した建物で、台所兼居間食堂は手狭なものであった。しかし、年を経て重度化が進み、車椅子の利用者が増えてきたため、移動しやすいように家具などの配置など工夫し、整備してきている。さらに、居間をデッキまで広げようと検討している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	非常口付近には椅子は配置できないが、畳の間にテーブル、冬場はコタツを設置して、利用者同士会話を楽しんで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の状態、生活歴を理解して、居室が居心地よく過ごせるよう心掛けている。	以前の利用者から譲り受けたベッドなどを再利用したり、畳を好まれる利用者には畳敷きにしたり、冷房が必要の利用者にはクーラーを設置したりして、利用者の好みや状態に応じて、心地よく過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りを重視し、自立できる部分は自立していただいている。また、利用者が安全に過ごせる環境を整えて、自立ができるように支援している。		